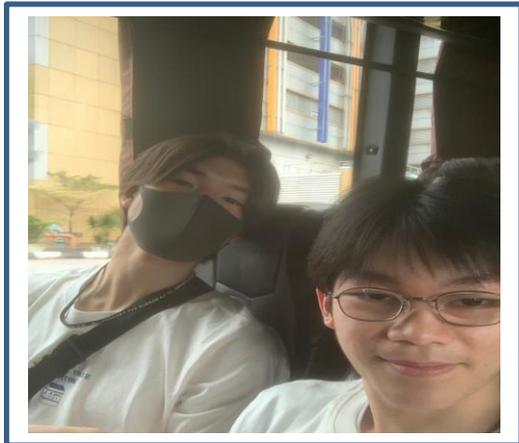


OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名	Tomoya Okano
所属	工学部 航空宇宙工学科
学年	1年
留学先	UM (マラヤ大学) マレーシア
留学期間	2023/2/12~2023/3/5

留学レポート Study Abroad Report

私は今回 SOSHIP という SEP とはまた別のプログラムに参加しました。SOSHIP は日本人 2 人につき現地の buddy が一人つくという非常に恵まれた環境でこの 3 週間を過ごせました。今回に関しては、東北大学の 6 名はオンライン参加であったので、実質私は現地の buddy と一対一でこの三週間を過ごしました。僕の buddy は上の写真の右側の子で中国人の方でした。僕はこの留学期間、この buddy とその周りの中国人 buddy とかわることがすごく多く、イスラム文化以外の文化に触れる機会がたくさんありました。まず第一に、宿の紹介をします。ホテルであり、非常にきれいな室内、ロビーが用意されていてびっくりしました。トイレもトイレペーパーがあり、非常に日本のホテルと似ていました。プール、ジムもあり、各自 buddy たちと遊べたのもいい思い出です。

続いて、授業について。SOHSIP は英語を学ぶというよりかは英語を使って学ぶことに力を注いでいるように感じました。内容は、gender study, International relationship, psychology, Malaysian study の 4 項目です。教師は特別な英語なまりもなく、非常に聞き取りやすかったです。ただ先ほども申し上げたように、英語の聞き取り、スピーキングの能力が一定以上ないと授業についていけないと思います。ここは強めに言っといたほうが次の人が失敗する可能性がある所以说います。TOEIC の目標目安は 800 前後がいいラインだと思います。それぞれについて説明すると次回のネタバレになりかねないので、軽く説明すると、gender study に関しては、SEX、sexual problem について深く学びます。日本ではありえないような授業が待っていますので楽しみに。IR (international relationship) に関しては、WW1 から WW2 の範囲を国際関係に絡めて学びます。自分はこの授業が一番好きでした。Psychology に関しては世界一ラブリーな先生が思春期の私たちに必要なことを教えてください。



交流と日々の日程について

平日は朝 8:10 分から大学内で朝食を食べます。朝食は毎日決まっていますが、自分の好きな量をとれるので安心でした。

9:00 から授業です。毎日、2 時間の授業が 2 コマあり間には 30 分休憩があります。室内はどこも寒いので、上着を持参することを強く勧めます。

2 コマ目が 1 : 30 に終わり昼食です。朝ごはん同様、自分の好きな量をとれます。3 コマ目は日によって変わります。一日おきに、小旅行、伝統的なダンス or 音楽の授業があり、発表会に備えて練習します。小旅行は、毎回現地の buddy が考えてくれており、バスも手配されているのでみんなで行っていただけます。3 コマ目が終わったら、基本全体行動は終了です。午後 5 : 0 0 からは各自 buddy と相談して、行きたいところに連れて行ってもらいます。基本はタクシーでした。モールに行ってお飯を食べて、少しブラブラして帰ってくるのが多かったです。KL はモールが多いので毎日新しいモールに行っていました。帰ってきたら、BUDDY と相談して寝るかまだ遊ぶか決めます。外出は buddy と一緒にないといけないですが、ホテル内は自由行動なので buddy が寝てからもロビーでカードゲームをすることも可能です。自分は、この時間が一番好きでした。いろいろな buddy と関われ、お互いのことを理解できるからです。SOSHIP は基本的に、SOSHIP で行動することが多かったので、このようにほかの buddy と関わる機会は大事にしましょう。



最後に僕が経験したマレーシアでの入院についてです。2 週目の月曜日から、発熱 38.5 があり頭痛、関節痛などの症状で病院に行きました。病院に行くまでは病院担当の buddy さんが症状について詳しく聞き、その人の判断で病院に行きます。基本的にすぐに病院に連れて行ってくれるので安心してください。病院では、パスポートと保険証の提示を求められます。またペーパーワークの際、日本人の通訳がいるかいないかの記入欄がありますが、そこにはいと記入しても必ずしもつくとは限りません。本当に欲しい場合は、英語を話せないふりをしましょう。自分は普通の風邪の時は通訳がなかったのですが、虫垂炎と診断され手術の可能性を提示されたときは不安で、buddy に日本人の看護師をつけることをお願いしました。運がよく虫垂炎ではなく、急性胃腸炎であったので、手術は免れたのですがそれでも万が一のこと考えて、入院しました。入院は合計 2 泊で済みました。特に日本の病院と変わったところはないと思います。ただ、でてくるご飯はおいしくはないので、元気があるようでしたら一階のレストランに行くことをおすすめします。入院の手続きまでは、buddy がずっと付きっきりで看病してくれました。10 時間も一緒にいてくれるので本当に安心です。病院に行かないのがベストですが、やはり病院に行って色々感じることもありました。日々の英会話には自信があっても、自分の症状を説明するときに単語がわからなかったり、改めて自分の英語力が試されたいいい機会でした。



本当に最後に、自分は大阪公立大学の代表としてスピーチをする機会を幸運にもいただきました。そこでスピーチをしていると、自然と涙が出てきました。確かに自分は涙もろいですが、この涙はこのプログラムについての感謝、別れの悲しみがあふれ出した涙でした。それだけ、自分はいろいろな人に助けられて、マレーシア式のおもてなしをすごく感じました。UM のみんなには本当に感謝しかありません。またこの機会を与えてくれた、家族、国際交流課のみなさんに本当に感謝しています。

